

献 辞

梶山泰生先生は、2021年3月31日をもって本学を退職されることとなりました。

梶山先生は1992年に東京大学法学部第3類（政治コース）を卒業後、ソニー株式会社に入社されました。同社で業務経験を積まれた後、1996年に東京大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、2000年に同博士課程を単位修得退学、2003年に博士（経済学）を取得し修了されました。日本学術振興会特別研究員（DC1）、ペンシルベニア大学ウォートン校客員研究員、東京大学大学院経済学研究科助手を経て、本学には2001年10月に経済学部助教授として着任し、2006年4月に本学大学院経営管理研究部・教育部の創設とともに助教授、翌年に同大学院准教授を経て、2010年3月には本学大学院経営管理研究部教授に昇任されました。その間、2009年にはスタンフォード大学に客員研究員として滞在されました。

梶山先生は本学の経済学部・経済学研究科及び経営管理大学院における教育・研究・運営にご尽力され、多大な貢献をなされました。教育に関しては「京都大学経営管理大学院ベストティーチャー賞」を2011・2015・2019年度において3度受賞されるなど、先生の授業は常に高い評価を受けてられました。また、在任期間中に、経営管理大学院ではワークショップにおいて100名近い学生を、経済学部では演習において18期200名弱におよぶ学生を社会に送り出してこれたことに加え、大学院経済学研究科で指導された大学院生からも、10名を超える大学教員を送り出してこれるなど、実務界・学术界を問わず多数の人材を社会に輩出されてきました。

研究面では、梶山先生は、多国籍企業のトランスナショナル化プロセスの研究や、企業の研究開発マネジメントとオープン・イノベーション、ビジネス・エコシステムの研究に従事され、一貫して企業の境界や国境を越えて協働するイノベーションについて研究してられました。『組織科学』『国際ビジネス研究』などの学術誌に掲載された論文をはじめ、多くの研究成果を発表されています。『技術を導くビジネスアイデアコーポレート R&D における技術的成果はどのように向上するか』が、第23回組織学会高宮賞（学会賞、論文部門）を、『グローバル戦略の進化—日本企業のトランスナショナル化プロセス—』が、国際ビジネス研究学会2010年度学会賞（単行本の部）を受賞されるなど、その研究は学会等で高い評価を受けてられました。また、国内外で多数の論文、著書を刊行してきたことはもとより、国際学術会議や研究ワークショップを主宰するなど、日本の経営学の発展に大きな貢献を果たされています。

学会活動においては、組織学会で評議員、国際ビジネス研究学会で理事を務められたほか、研究イノベーション学会、日本ベンチャー学会、Academy of Management、European Group for Organizational Studies などにも所属し、各団体で活躍してられました。また、多数の企業との共同研究や研究会を主宰し、経済産業省の標準化経済性研究会委員や、三菱総合研究所や大阪商工会議所といった団体においてもフェローやアドバイザーをお務めになるなど、様々な組織との協働を通して多くの実践的な貢献をされています。

学内においては、2014年から2017年まで京都大学起業家育成プログラム（GTEP）の全学責任者を、2016年から2018年まで京都大学教育研究評議会評議員、経済学研究科副研究科長を務めら

れるなど、大学の運営にも尽力してこられました。また、京都大学の学生生活委員会委員として学寮関係を主担する委員会の委員長を務められるなどの貢献もされました。

京都大学経済学会は、こうした先生の多年にわたるご功労に対する敬意と感謝の気持ちを込めて、『経済論叢』の本号を記念号として編集致しました。先生とゆかりのある方々から寄せられた論文を編んで、本号を先生にお贈りできますことは、私どものこの上ない慶びとするところであります。

先生が今後ともますますご健康で、学界のため、また広く社会のために、ご活躍なさいますことを心から祈念致します。

2021年8月

京都大学大学院経済学研究科長

依田 高典